

## 第 39 回 帰国報告会 – 千葉県 JICA シニアボランティアの会

第 39 回帰国報告会が 2026 年 1 月 18 日（日）13:30 から浦安市国際センターで、来賓として JICA 東京の榊原克利氏、千葉デスクの岡本多永氏、青年海外協力隊千葉 OB 会の大久保眞氏、梶野良夫氏、千葉県 JICA 協力隊を育てる会の内山彰彦氏、吉田憲司氏、シニアボランティア経験を活かす会の松田信治氏をお迎えして開催されました。中西陽典会長の主催団体挨拶、榊原克利氏の来賓挨拶に続き、露木雅美コーディネータによる企画説明が行われ、続いて JICA 海外協力隊として派遣され最近帰国された 2 名の講師による講演、会場とリモート参加者との質疑応答が活発に行われました。会場参加 31 名、リモート参加 6 名で盛況でした。

以下の報告は、一部および質疑応答の全部を割愛したバージョンです。フルバージョンは別途報告予定です。

### ■ 主催団体挨拶（中西 陽典会長）

この報告会も今回で 39 回目となります。JICA のボランティアとして色々な国に派遣された方々が、地域社会への還元の一環として、また地域の国際化に対する貢献等を含めまして報告会を開催させていただきます。今回は、5 つの団体から来賓の方にご臨席いただきました。（来賓の方々の氏名は文末の[スケジュール](#)に記載につき割愛）今回は、タジキスタンの医学教育を渡辺様から、また、藤井様にはメキシコのケレタロ工科大学での活動報告ということで、それぞれの国の文化やどんな生活を送ってこられたのかななどを皆様と共有していただければと思います。



中西 陽典会長 主催団体挨拶

### ■ 来賓挨拶（JICA 東京 榊原 克利様）

JICA 東京センターの榊原と申します。私自身も元隊員で、2018 年度 3 次隊でアフリカのカメルーンに行っていました。コミュニティ開発隊員として水・衛生分野で活動していましたが、コロナの影響で 1 年と 3 ヶ月ほどで帰国を余儀なくされてしまいました。その後、JICA にご縁をいただきまして、主にボランティア事業に携わらせていただいております。SV 会の皆様には、この帰国報告会の他にも出前講座など、精力的に社会還元活動をされており、これは JICA だけでは成し得ない、千葉県における国際協力の理解促進活動の展開をいただいています。感謝を申し上げます。



JICA 東京 榊原 克利様 来賓挨拶

JICA 海外協力隊というものは、繰り返し評価をいただいておりますが、派遣状況は芳しくないという

状況も一方ではございます。派遣応募者が減少傾向にあるものの、下げ止まりの兆しはございまして、今後も相手国の方々に信頼されて期待される事業であり続けるために、皆様と共に応募の勧奨に努めて参りたいと思っております。

現状を少しお話ししますと、コロナでは一旦ゼロとなった派遣人数ですが、1月1日現在、1,657名まで派遣人数が回復しております。千葉県からはこれまで2,436名の方が隊員として世界に飛び立っております。現時点では36カ国で58名が活動しているという状況でございます。今、協力隊に応募される方で一番多い年代は20代、30代の方で、半数ぐらいがその年齢層となっております。一方で、2023年に若年層の中、20代、30代の皆様にアンケートをとったところ、「JICA海外協力隊を知っていますか？」という質問に対して、2割の方が「知らない」と答えました。さらに、「JICA海外協力隊と聞いたことがあっても、何をしているか分からない」という方は45%ぐらいいらっしゃいました。合計すると、7割弱の方が「協力隊って何をやっているかよく分からない」もしくは「全く知らない」という状況でございます。そんな中、事務局が取り組んでいるのは、こういったいわゆる「無関心層」の方々へ、いかに協力隊を知ってもらうかということです。最近、若い方は特にSNSの利用をよくされていますので、協力隊事務局としてもSNSを活用した募集広報活動に力を入れて実施しております。

協力隊を終えて帰国後のOBの皆様が、日本で、国内で課題解決に取り組む事例も増えてきております。千葉県においても、特に千葉という地の利を持つ魅力の発信などのために協力隊OBが貢献していること、これは事業の目的の1つである「ボランティア経験の社会還元」という点からでも、非常に良いことと考えておりますので、こういった事例をもっと事務局としてもたくさん発信していきたいと思っております。これからもJICA海外協力隊というものが、日本や世界が直面する課題に対応して、世界の友好関係の進化に寄与するべく、さらなる発展を目指していきたいと存じます。改めて今回の企画・実施に感謝申し上げます。以上で私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

## ■ コーディネータによる企画説明

本日は、多数の方にご参加を頂きましてありがとうございます。私は、1990年にメキシコ政府の「メキシコ首都圏大気汚染統合プログラム（PICCA）」に係る、大気汚染の浄化効果をもつ森林地域拡張のためにメキシコ市育苗場建設と松の植林事業の基礎調査に参加しました。また、2016-17年に「中央アジア地域高度産業人材育成に係る情報収集・確認調査」でタジキスタン国の首都ドシャンベ市に情報収集・確認調査に訪れました。

メキシコ市は、山岳地帯の盆地でスモッグが大変でした。また、松植林を利用して松茸生産が盛んで、日本へ輸出しているとも伺いました。タジキスタンで



露木 雅美 コーディネータ 企画説明

は、多くの若者たちは大学を卒業するとロシアに留学や出稼ぎに行くと同じ、日本との文化交流も盛んで東京へ行きたいという若者もいました。ともあれ、二か国共に大変懐かしく思い、現在の現地の状況を聴講したいと思っております。

さて、JICAの海外協力隊は、任国の派遣期間が終了し帰国後に隊員の貴重な体験を社会還元することも目的の一つとして期待されています。私達「千葉県 JICA シニアボランティアの会」は、その目的に沿って 2003 年創立以来、関係団体から共催や後援を得ながら国際協力の理解促進に係るボランティア活動を継続しています。

今回は、派遣国から帰国された 2 名の方々から派遣先での活動内容や生活の様子等を紹介頂き、報告会に参加している皆様と交流するため 2025 年度 3 回目の帰国報告会を企画しました。

本日の講演では、渡辺 章様に派遣国タジキスタンでの職種：公衆衛生に関するテーマとして「中央アジアのタジキスタンの医学教育とは？ イスラム教の国は、どんな国ですか？」について、また、藤井 史朗様に派遣国：メキシコでの職種：品質管理と生産性向上に関するテーマ「メキシコ・ケレタロ工科大学での 2 年間の活動報告」について講演して頂きます。

両名は、日本からは遠く離れた国に海外協力隊員として派遣された方々で、異なる地理と社会環境の中での活動は、私達にとって大変興味深いところです。さらに、これから海外協力隊へ応募する方や任国へ派遣予定の方にとっても、貴重な情報となります。そして、市民の皆様には多文化共生と共存、SDGs の具体例を知る機会になることを期待いたします。

## ■ 渡辺 章 講師 講演

### 自己紹介

千葉県松戸市に住んでおります。タジキスタンに 2023 年度 1 次隊で派遣された渡辺 章です。職種は公衆衛生で、去年の 7 月に 2 年間の活動を終えて帰って参りました。シニアの海外ボランティア、今は海外協力隊に変わりましたが、3 回目にして、後で自己紹介の時にまたお話ししますが、パプアニューギニア、それとミクロネシア連邦、そして今回タジキスタンが 3 回目です。

コロナ禍の影響で、ザンビアの病院に派遣される予定だったのが中止になり、1 年半ぐらいペンディング。JICA の方から「タジキスタンで同じような公衆衛生があるけれども考慮できますか」という内容のオファーがあって、今回中央アジアのタジキスタンに決まりました。一言で言うと、とても自分自身のためには良かった 2 年間だったと思っております。

皆さんご存じの通り、シニアもジュニアも長野県の駒ヶ根研修所で語学訓練を受けます。私の場合はタジク語の先生がいないということで、キルギス人女性の



渡辺 章 講師

先生にロシア語で研修を2人（派遣候補生として）受けて、200時間一応終了試験に合格した上で派遣という形になりました。

## タジキスタンでの生活

タジキスタンは1990年に旧ソ連が崩壊した後、独立した15の共和国の1つです。中央アジアの中にはカザフスタン、キルギスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、タジキスタンと、5つの中央アジアの共和国があります。タジキスタンはイスラム教を信仰している人が90%以上という国です。お酒は飲みますが、戒律的にはイスラム文化圏ですから、2年間は豚肉にアクセスできない、基本は鶏肉と牛肉とメインは羊ですね。羊を食べて自分で自炊をしたというような形で生活して参りました。

何が良かったかと言うと、治安が非常にいいんですね。夜9時に家族連れで公園を歩いているだけでも全く襲われることがないですね。銀行の前に車を停めて窓を開けていても、中のハンドバックを盗むというような賊もない。非常に安全な国なんですけれども、ただ一つ、車の免許証が、自動車学校がほとんどないんですね。お金を払って免許証をもらうっていう形なので、200ドル払うと3週間、300ドル払うと2週間で免許証が届くんです、写真の処理。ですから交通ルールを知らないの、運転のマナーが非常に悪くてですね、いつ横断歩道を歩行者が青で渡っていても車が突っ込んでくるもんですから、まあ交通事故だけJICA事務所からも常に注意するようにという注意勧告を受けていた国です。

## JICA 制度の改定問題

先ほどのJICA東京の方からのお話もありましたように、シニアの募集が1回、秋募集で停止になったり、応募する方が少なくなっている傾向もあるんじゃないかと思います。それはなぜかと言うと、日本での雇用環境の改善とかもあるんでしょうけれど、ジュニアというか若い人たちとシニアの待遇改善を同一に統一にしたんですね。ですから、私が以前派遣されたミクロネシア連邦の時には、シニアの方は配偶者随伴が可能だったんですけども、今はそれがなくなりました。2年に1回の健康診断に日本に帰国する公費負担の休暇もなくなりました。もう一つ、住居費ですね、細かい話ですけども、以前は隊員の1ヶ月負担分の2倍という形でした。今はもう隊員と同じレベルという形で、場所によっては見つけるのが大変かなというようなケースもありました。でも、たまたまドウシャンベは500ドル出すとそこそこいいところのアパート、まあ電気・水道・ガスは別なんですけれども、500ドルで十分生活できたので特に問題はなかったんですけど、場所によっては単純にシニアと同じ、ジュニアとシニアが同じだと、多少その自己負担らしきものが増加するようなこともあったように思えます。

## 活動紹介

配属された公衆衛生学部には5つの学科があって、その中で医療の歴史と医療経済というところをメインにアドバイスしました。ウイルス学科、あとは疫学とか、他にいくつか学科があったんですが、そこ



の先生たちの授業を見学した上で、良い点・悪い点をロシア語とタジク語にして学科長と各先生に渡して、それが次の授業でどういうふうに変更されるかという内容の活動をしました。これは医療史と医療統計学の教員に対するもので、例えば、良い点で言うと、各教員のモチベーションは非常に高く、学生の学習意欲も高かった、あるいは個別の知識レベルも、PhDの博士号を持っている人は少ないんですけども、修士号の最低限を持っていて、お医者さんもいますので、非常にレベルは高い。で、学科内の教員名簿も作成していて共有しているので連絡も密にとっていました。



講師/参加者交流

学術的な研究関係で言うと、どこまで受け止めてくれるか分からないですが、一応今 SDGs っていうのが一つの大きな WHO の柱になってますので、それに基づいてアドバイスをしてきました。去年の6月ですけど、トルコのイスタンブールで国際会議があって、SDGs の会議に1週間ほど参加して、オックスフォード大学の先生とか色々な先生たちと、中央アジアだけじゃないんですけども、積極的な国際カンファレンスで大学の同僚の先生と出席して研修をしてきました。3,000人ぐらい参加しましたね。日本人は私1人だったんですけど。で、ちょっと面白かったのは、糖尿病の患者が非常に多いんですね。食生活に起因するところが多いんですけども、目と腎臓と足にくるんですね。で、その足を切断する人が非常に多いです。なぜかという、痛みが麻痺して足に傷があってもそのまま放置して、そこから菌が入って壊死して足を切断するという人が非常に多いです。糖尿病の早期発見・早期治療というのは非常に大事だという話をしました。タジキスタンの公衆衛生の課題ですけども、感染症は結核とかマラリアとか、HIVも結構多いんですが、今はもう生活習慣病です。癌、糖尿病とか心疾患、そっちの方に移行している、そういう国です。ですから、そういったものの食生活を改善するとか、塩分を減らすとか、ノンシュガーにするとか、そういったことが重要じゃないかというような提案をしました。

非常に親日的でしたね。ちょうど私がいる間に、救急車80台の無償資金協力があったり、8億円の医療機材、CTとかですね、結石破碎装置とか手術台とかっていう無償資金があったので、それも向かいの大学でやられていたので、それを大学の先生と一緒に見に行って、「日本はこういうハードワークの協力をしているんだ」というような説明をして、喜んでいただいたこともありました。で、今後の課題ですか、やはり馴染みのない国ですので、日本と少しでも関係を密にしていくためにはいろんなジャンルでの派遣っていうのが必要じゃないかというふうに感じました。



講師/参加者交流

## 専門の蚊について

ここでタジキスタンの部分についてのお話はここで終わりますけれども、私の専門は蚊とマラリア対策なのです。タジキスタンにはほとんどマラリアの患者がいなくて、エイズはロシアから持ち込まれる人が多いんですけど、一番問題は結核だったんです。蚊についての話をしますけども、皆さん赴任していた国で、蚊にたくさん刺されたとか、蚊が媒介するマラリアにかかったとかっていう方もいらっしゃるかもしれませんが、蚊の種類について、今世界で発見されてる蚊の種類ってというのは、3択で言います。1,000種類か2,000種類か3,000種類か。どれだと思いますか？

まず1,000種類だと思う方。はい。2,000種類。3,000種類。はい、3,000種類の方が一番多かったですね。

約3,000種類の蚊が発見されています。

日本にいる蚊の種類。日本に、ヤブ蚊とかいろいろいますよね。多分5つぐらいしか言える方は少ないと思うんですけど、日本にいる蚊の種類、また3択でいきます。

100種類、200種類、300種類。

100種類の方。はい。200種類の方。はい。300種類の方。はい。

日本にはですね、115種類の蚊がいるんですね。

沖縄とか奄美地方にはマラリアを媒介するハマダラカっていうのも今現在生息しています。だから、外国からマラリアにかかった、血液、人間の体の血液の中に原虫がある人が日本に来るとですね、そのハマダラカが血を吸ってまた伝播するという可能性もゼロではなく。江戸時代には三日熱マラリアが、彦根城の辺りぐらいまで日本はマラリアの汚染地帯だったようです。

マラリアの種類は今5種類あるんです。三日熱、四日熱、卵形マラリア、サルマラリアと、熱帯熱マラリアと。一番危険なのは最後のこの熱帯熱マラリアでして、熱帯熱マラリアにかかると治療しないと1週間で亡くなる。それは血管の中の赤血球がたくさん増えて血管を塞いじゃって、血液が流れなくなると脳細胞のところには血が行かなくなって脳性マラリアで死ぬというのが一番の死亡の大きな原因ですね。私が赴任した国ではマラリアについての予防策は、講義の中で授業をやっただけで、そんなに論議されたことではないんですけども、まあ、協力隊員が派遣されるカメルーンにしても、熱帯熱マラリアいっぱいありますし、いろんなところで蚊に苦労された方多いんだと思うんですけど、蚊についても、今後、公衆衛生、感染症対策で派遣されるJICAボランティアの方が多くなるんじゃないかと思います。

**(沢山の質問があり活発な質疑応答がありました。長くなるので本報告では割愛します。)**

## ■ コーディネータ

では皆さん、もう時間が来ましたので、これで終了とさせていただきます。渡辺さん、どうもありがとうございました。

## ■ 藤井 史朗 講師 講演

### テーマ：メキシコ・ケタロ工科大学での2年間の活動報告

#### 自己紹介

藤井です。よろしくお願いいたします。まず自己紹介ですが、大阪出身で、大学の専攻は化学（化学）です。大学を卒業した後は鉄鋼メーカーに入社し、主に研究開発部門で材料工学と表面化学に携わりました。海外経験としては、会社に所属したまま米国大学に派遣され、マテリアルサイエンスの基礎研究を行っていた経験があります。また、オーストラリアの鉄鋼メーカーと新製品の共同開発研究を行い、その商業化、具体的には高耐食の表面処理鋼板というものの開発を成功させたという経験があります。その他、国際会議や学会にも何度か参加しています。

JICA への応募の経緯ですが、正直、JICA のことは全然知りませんでした。40 歳頃にたまたま電車が何かで広告を見て、「あ、これ面白そうだな」と思い、一度船橋であった説明会に聞きに行った記憶があります。60 歳直前で応募して合格したのですが、派遣をするという段階でコロナが蔓延してしまい、結局3年間ぐらい待たされました。そして2023年8月、2023年度1次隊としてメキシコの国立ケタロ工科大学、職種は品質管理・生産性向上で派遣され、2年間活動し、去年の8月に帰国いたしました。

#### メキシコとはどんな国

メキシコのイメージについて、行く前に一番多かったのが、「危ないところに行くんだね」ということでした。テレビを見ているとドラッグカルテルやマフィアが出てきて銃を乱射するとか、そういうニュースがいっぱいあるので。あとは「暑い国」、赤道に近いし暑いのではないかと。それから「物価は安いけれど生活レベルは低いんじゃないか」。そういったイメージを、私も含めて少なからず持っていました。では、それって本当？ということで、まず最初にメキシコとはどんな国かということ、私なりに説明します。



藤井 史朗 講師

メキシコという国の概要ですが、人口は1億3,000万人ぐらいで、日本よりもちょっと多いぐらいです。面積は日本の5.4倍ぐらい大きく、GDPで言うと日本の半分弱ぐらいです。ただ、世界ランキングで見ると経済規模は結構上で、今12位ぐらいです。G7のカナダの次ぐらいには位置しています。通貨はメキシコペソで、為替レートで見ると、ここ数年で「スーパーペソ」と呼ばれるぐらいペソ高に推移しており、逆に対円レートで見ると、今は1ペソ8円ぐらいまで上がっています。私が赴任した時は6円ぐらいだったので、3割ぐらい価値が上がっていることになります。住むにあたって貨幣の価値は非常に重要ですが、2020年4月から現在に至るまでのチャートを見ると、ご存じのように日本円の価値はすご

く下がっています。行く時に「メキシコって物価が安いよ」という話を聞いていたのですが、実際に行ってみたら全然安く感じないのです。というのも、日本円の価値がただ下がりしているからです。ドルに対しても下がっていますが、ドルはせいぜい 1.3 倍か 1.4 倍ぐらいですが、メキシコペソに対しては 2 倍ぐらい違ってきているので、メキシコで住めば物価が安くて楽だという話は、もう昔話になっています。

気候についてですが、首都で比較します。メキシコシティと東京で比較すると、年平均気温で言うと全く一緒に 16 度です。ただ、カーブを見ると全然違うのは、日本の東京の夏は最近特に暑くて 35 度以上になりますが、メキシコシティだと 30 度を超えることはまずありません。私は経験したことがありません。夜は 15 度以下まで下がるので、夜出歩くときは長袖じゃないと肌寒いくらいです。ですから熱帯夜なんていうのは絶対に起こりません。冬に関しては、東京だとたまに雪が降りますが、メキシコシティではそれはありません。すごく過ごしやすいです。私はメキシコの気候が好きです。

次に人口構造ですが、日本は逆ピラミッド型ですが、メキシコはピラミッド型です。若干最近減ってきてはいますが、平均年齢は日本が 49 歳に対し、メキシコは 29 歳なので全然若いです。アメリカですら 39 歳なので、ポテンシャルは非常に高いのかなと思います。

政治ですが、男性社会だと思われるかもしれませんが、2024 年の 6 月に初の女性大統領、クラウディア・シェインバウム氏が誕生しました。日本も高市さんが初のリーダーになるかというところでしたが、それより少し前に誕生しました。

米中对立が激化していますが、メキシコは生産拠点が海外投資をいっぱい受けており、成長の機会もあり、経済発展をしています。2024 年のメキシコにおける自動車メーカー別の生産台数を見ると、米系が当然一番ですが、その次に来るのは日産をトップとする日系です。その後にドイツ、韓国、中国も若干最後に入っていますが、そういった感じになっています。トランプ関税の影響で大騒ぎになっていますが、部品に関しては USMCA (米国・メキシコ・カナダ協定) のスキームに入るものは関税がかかっていないと思います。完成車に関しても USMCA の条件を満たしていれば関税はかなり軽減されます。なぜかと言うと、米系のビッグ 3 (GM、ステランティス、フォード) がメキシコに生産拠点をかなり移してしまっているからです。だから対象になるのは中国の BYD などです。トランプ関税の問題ですが、メキシコは中国を追い抜いて、米国にとって最大の貿易輸入相手国はもうメキシコです。日本の 3.4 倍ぐらいです。だからアメリカが 25% 関税をかけるというのは、ちょっと馬鹿じゃないかなと思うのですが、メキシコにすごく依存しているんです、アメリカというのは。色々例外規定をつけて外している部分はありますが、そういう状況です。



報告会会場 講師/参加者

治安状況ですが、私が最初に聞いた時は「皆さん危ない国だよ」という話でした。それは確かです。国全体の平均で見ると、日本の強盗の発生件数とメキシコの発生件数は約 175 倍違います。ただし、地域によってもものすごく差があるんです。メキシコで「ヤバいところ」というのは北部地方になります。なぜかと言うと、メキシコ人もアメリカに国境を越えたいのですが、中南米、例えばベネズエラなどは破綻国家がありますよね。彼らはもう国を出て、極端な話、歩いてメキシコまで来て、メキシコの北部地域で国境を越えられず、居住権もなく路上生活などを行っています。彼らが犯罪の、ドラッグカルテルの犠牲者になったり、あるいは職がないから犯罪に手を染めるというケースがあります。もちろん一番はドラッグカルテルです。ドラッグカルテルはアメリカに対して違法薬物を輸送するので、そういったところで犯罪の発生率が高くなります。だから日本大使館ないし JICA の事務所は、北部地域やティファナなどの地域には行かないようにというお触れを出しています。

ちょっと紹介したいのは、ケレタロの街というのは非常に安全ですが、一度かなりショッキングな事件が起きました。2024 年の 11 月に起こった事件ですが、ケレタロ市の中心部のレストラン、これはスラムとかそういう危ない場所ではなく、観光客が食事するような場所として悪くないところなんですが、そこに 4 人の武装した男たちがピックアップトラックで現場に到着して銃を乱射し、10 人が死亡して 13 人が負傷しました。この中で確認されているのは 1 人だけがドラッグカルテル関係者で、残り 9 人は全くドラッグカルテルと関係ない人がたまたま巻き添えを食らって殺されているということです。

派遣先の街の状況ですが、私はケレタロ市というところに派遣されました。人口は 110 万人ぐらいで、標高が 1,900m 弱。メキシコシティよりちょっと低いんですが、それなりに気候の良いところです。ケレタロ市というのはメキシコの歴史で考えて非常に重要な役割を果たした都市で、スペインに対する独立戦争が開始された都市です。あと、1917 年に現行のメキシコ合衆国憲法というのが制定されたのもここで、古都です。街は、京都みたいに新しいビルは規制されているんです。だから行くとヨーロッパの中世の都市みたいな感じで、かつ、割ときれいに清掃されています。メキシコの街は結構汚いところもあるんですが、ケレタロ市は非常にきれいです。そういう街です。

## 派遣先での活動

私の活動ですが、配属先はケレタロ工科大学で、大学との高度期間があるんですが、ケレタロ工科大学はその中でも割と歴史の古い方です。工科大学というカテゴリーに入るのは 3 つぐらいあって、その中で一番古い大学です。国立と州立と私立の 3 種類あるんですが、ここは州立の大学です。学部としては 11 学部あって、私は「産業工学部」というところに派遣されたんですが、「半導体工学部」は私の派遣中に新たに新設されました。要するに地元の産業界のニーズに応じてそう



講師/コーディネータ/参加者/Zoom 画面

いうのを増やしてきたということです。経営工学部とか材料工学部とか、ロジスティクス（物流工学部）の学生とはコンタクトがありました。

ケレタロというのはメキシコの経済を牽引している「バヒオ地区」の中心部にあって、この大学の使命としては、そういった製造業の技術サポートをするというのがあります。大学の活動としてコンサルテーションをやっているの、私はもちろんそれに参加したということです。私もエンジニアなので。

活動としては主に次の4つをやりました。

1. 大学内外での講義・講演
2. 地元企業への技術コンサルティング
3. 日本語教育
4. 大学と日系企業の橋渡し

### 大学内での講義・講演

まず1番目の「大学内での講義・講演」です。私の職種は「品質管理・生産性向上」なんですが、派遣されて2~3ヶ月ぐらいにカウンターパートの教授から「今度、環境週間で大学の中でカンファレンスやるから講師をやってくれ」と言われたんです。品質管理とは全然関係ない、SDGsのテーマで、大学内外から専門家を呼んでやるということで、私も「ちょっと写真も出して」と言われたら、いきなり組み込まれて「じゃあ1時間話して」ということになりました。環境関連、特にメキシコは降水量のグラフでお見せした通り、非常に深刻な水資源問題を抱えているので、かつマネジメントも全然良くないんです。そういったところを、私は「にわか勉強」ですけれども、1時間ぐらいの講義資料に仕立てて講義しました。メキシコ大学の学生の英語レベルは高いと言いましたが、必ずクラスに何人かはペラペラがいます。だから英語でやったということです。他にも大学内だけでなく企業に訪問しても、水資源問題や、日本は結構優れた環境技術を持っているので、そういったことを紹介したりしました。

次に私の一番専門のところですが、鉄鋼メーカーにずっと勤めていたので、鉄鋼プロセスとか製品とか、自動車産業との関係性ですね。こういったのを資料にまとめて学生に説明しました。メキシコは自動車産業はすごく進んでいますが、鉄鋼産業はあまり盛んではないんです。鉄鋼というのは高品位の自動車を作るのに非常に重要な材料なので、そういったことを詳しく説明しました。鉄鋼製造プロセスはこんなものですか、スペイン語を使って説明しました。

メキシコの工科系の大学生のレベルってどんなの？ っていうと、先輩隊員は「結構ネガティブに考えて、大学と言いつつ高校生レベルだ」と言っていたんですが、私は全然そんなふうには感じなかったです。やっぱり優秀な人は優秀なんです。で、そういった子に講義して、彼らは「5S」を知ってるんですよ。昔ながらの「5S 大切だ」「カイゼン大切だ」という話をありがたがって聞くかと言うと、それはちょっともう昔の話でしょ、という気はしました。だから、5Sやカイゼンというのは目標じゃなくて、出発点なんです。5Sをして初めて品質は良くなって、生産性の向上が上がってプロフィット（利益）が出て

くるんだから、継続はもちろん大事だけど、継続した上でそれをプロフィットに上げていくというところ、そこが大切ですよという話をしました。

「5Sについて、整理・整頓・清潔・清掃、そして最後に躰とされていますが、躰はメキシコ人には理解できるのでしょうか」と、ノートのこと（Zoomのチャット欄）にご質問いただいているんですが、それ、同じような質問を受けました。躰とか厳しく叱るみたいなことをやると、日本人は割と耐えるかもしれないけど、メキシコ人は多分そうはいかないかなという感じはしますね。極端な話、すぐ辞める。さっきのアメク（自動車部品製造会社）でも一人は辞めました。別に躰が厳しかったわけではないんですが。

## 地元企業への技術コンサルティング

次に「地元企業への技術コンサルティング」ですけど、まずバイオ地区の背景を見ると、非常にマルチナショナル、多国籍企業、日系も含めて投資が非常に多いです。自動車産業が非常に栄えていると。

メキシコは米中対立、トランプさんのおかげもあるんですけど激化していて、最大の受益者は多分メキシコだと思います。USMCA（旧 NAFTA）のスキームのアドバンテージがあるので、日系企業も、一番の最大投資は米国のビッグ3が投資してるんですけど、自動車関連、電気機器とか航空宇宙産業とかデータセンターであるとか、そういったものが多数あります、ケレタロには。派遣先のケレタロ工科大学は、その地元企業に対して技術コンサルテーションをサポートするという使命を帯びているということです。もちろんケレタロ工科大学は、そういった企業に対する人材供給源、マネージャークラスの人材供給源にもなっているということです。

国別の年間の生産台数を見ると、メキシコはかなり伸びていて、すでに韓国、ドイツは追い抜いています。かなり成長しているということです。2024年のメキシコにおける自動車メーカー別の生産台数ということで、米系が当然一番なんですけど、その次に来るのは日産をトップとする日系ですね。あとドイツ、韓国、あと中国も若干最後に入ってますけど、そういった感じになっています。

## 日本語教育

3番目の「日本語教育」ですけど、これは金属の結晶学のクラスでどんな課題かと言うと、結晶構造学に基づいて金属間化合物、酸化ベリリウムの物性や結晶構造の特徴を説明するというビデオをYouTubeにアップロードしなさいという課題を出しました。課題として、そのモデルは自作しなさい。あと説明はスペイン語と英語のバイリンガルでやりなさいという課題。クラスの中で4~5グループぐらい分けて、4~5分ぐらいのビデオを作り出させて、その中の最優秀の人は単位を試験なしに与えますというような課題で、その一部だけ紹介します。

（動画再生）まあこんな感じです。レベルは高いです、正直言って。日本の大学生でここまでちゃんと英語できてビデオも作ってというのは、割と短期間で仕上げたこいと言ったので、中々難しいんじゃないかと思うんですけど、決して侮れないと思います。

## 大学と日系企業の橋渡し

あと 4 番目の「大学と日系企業の橋渡し」ですけど、先ほど言いましたように日系企業はたくさん、今は 1,600 社ぐらいに増えていて、繋がっていないんですよ。大学側はそういう企業に就職したい、日系企業の名前すらも知らない。だから日墨商工会議所に、ケレタロ工科大学でやっている教育内容を説明会をオンラインで開催したり、あるいは幹部を横浜の所長さんを招いて説明したり学内見学をしていただいたり、1 級の学生をケレタロの日産系の自動車部品メーカーがありますので、そこに 50 人ぐらい連れて行って見学会を開催したり、そういうことをやりました。

あと「産学連携のプロジェクト」。これは「某」って書いてますけどトヨタなんですけど、要するに産学連携でプロジェクトを立ち上げたいという向こうからお話があって、うちの大学の専門家の話を聞きたいという話があったんで、アレンジして、できれば SDGs 分野の EV 関係とか、新素材関係の面白そうなのがあれば、トヨタグループのそういったところとコラボレーションして何かやれば面白いんじゃないかということでやりました。これはなかなか上手くいかなかったです。日本でもものすごく大変なんです、私、学会でそういうアレンジ、コーディネートした経験があるんで、一朝一夕にはいかないとは分かってたんですけど、そういう試みはやったということです。将来的にメキシコは、さっきのを見てても結局、独自ブランドがないんですよ。だからやっぱりメキシコが本当に先進国になるためには、独自ブランドの自分の研究開発能力をつけて、そういったレベルまで持っていかないと。そのためにはこういった活動は多分必要だろうなということで、こういうこともやりました。

## JICA 制度の改定問題

JICA とかジェット口がはっきり言ってもうちちょっと働かないかなと、正直言って。専門家いるんですけど全然役に立ってないですね。ていうか、多分その技術系のことを全然知らないんじゃないかなと。だからそこにはちょっと課題があるなと思います。全然もうほとんど協力得られなかったです、JICA の。だからそれは非常にちょっと不満に感じましたね。やっぱりエンジニアというか、科学技術系の専門性が全然足りないのかなという感じはしました。

活動中に苦労したことは、私自身はあんまりそんなに困難に直面したことはないかな、あんまり苦労は感じなかったんですけど。ただし、JICA の派遣要請の記載内容と実際の活動内容で大きな隔たりがあったというのは感じました。というのは、いきなり行って、結局品質管理の講義をやったことは一度もなかったです。SDGs の話をしてとか言われたし。派遣要請書に何て書いてあったかという、「日本の優れた 5S やカイゼン、工業的発展として教えること」ということになってるんですけど、そういう用語が、まあちょっと遡ってみたんですけど、10 年以上もう本当決まり文句みたいに使われているんですよ。だけどメキシコってね、もうそのレベルとっくに卒業してると思います。もう BMW の先端工場見たらすごくりっぱだし、すごくきれいだし、ちゃんと、さっきのアメクだって 5S なんて完全にもうちゃんと出来てますから。もうちょっとその次のステップの DX とか、Web 技術とかそういったところに、もうちょっと焦点を当てて募集要項を変えていかないといけないんじゃないかなと。だから、JICA ももっと

現地のニーズをちゃんと汲み取らないと、誰も応募してこないよって思いました。

あと最後、帰国後についてですけど、私も2回 JICA の活動に参加して非常に満足はしています。ただその一方で、大学も出だし、企業で働いて定年退職して、こういう活動をやったんですけど、シニア海外協力隊の位置づけが、先ほどの渡邊さんの話でもあったように、待遇とか、ちょっと微妙なんですよ。

「ボランティア」って言うんですけど、高度な専門性が要求されるんです。語学力も要求されるし、職務経歴も要求されるし、健康でなきゃいけない。だけど待遇はボランティア。それはちょっとアンバランスなんじゃないかなと。

アメリカの「ピースコー」は、若い人はボランティアだけど、シニアは「エキスパート」という待遇で厚遇されるんです。だから、ちょっとそこらへんを JICA は考え直した方がいいんじゃないかなと思います。

で、帰国後の社会還元ですけど、私、65歳になったんで、もう日本の企業で働く気は全くありません。満員電車に乗って通勤するなんてまっぴらごめんですから。ただ、やっぱり社会との接点は持ちたいんで、こういう OB 会で活動したり、こういった講演活動をしたり、現地の情報を発信したり、あとは大学で留学生に日本語を教えたり、そういう活動をやっていきたいなと思っています。

私の話は以上です。ありがとうございました。



講師/コーディネータ/参加者交流

**(沢山の質問があり活発な質疑応答がありました。長くなるので本報告では割愛します。)**

## ■ コーディネータ

本日はご参加ありがとうございました。大変勉強になるお話を伺いました。渡辺様、それから藤井様、大変有意義で、これからも参考にしたいと思います。それでは予定の時間となりますので、本日の2025年度3回目の帰国報告会を終了させていただきます。皆様どうもありがとうございました。

## ■ 懇親会

帰国報告会終了後、近隣の場所で懇親会が開かれ、希望者19名が参加し交流を深めました。



懇親会会場  
での交流

## ■ スケジュール

- 日時** 2026年1月18日(日) 13:30 - 16:30
- 会場** 浦安市国際センター研修室1と2 連結+リモート (Zoom)
- 主催** 千葉県 JICA シニアボランティアの会
- 共催** 浦安市国際センター
- 後援** JICA、千葉県、浦安市
- 来賓** JICA 東京/市民参加協力第一課 榊原 克利 様  
JICA 千葉デスク 岡本 多永 国際協力推進員  
青年海外協力隊千葉 OB 会 大久保 眞 副会長 (リモート参加)  
青年海外協力隊千葉 OB 会 梶野 良夫 様 (実会場参加)  
千葉県 JICA 協力隊を育てる会 内山 彰彦 会長  
千葉県 JICA 協力隊を育てる会 吉田 憲司 事務局長  
NPO 法人 シニアボランティア経験を活かす会 松田 信治 前理事長
- 講師** 講師 2 名とコーディネータの計 3 名

### 計画

- 13:30 主催団体挨拶 中西 陽典 会長
- 13:35 来賓挨拶 JICA 東京/市民参加協力第一課 榊原 克利 様
- 13:50 露木 雅美 コーディネータによる企画説明
- 14:10 講演 渡辺 章 (60分) 派遣国：タジキスタン、職種：公衆衛生  
テーマ：中央アジアのタジキスタンの医学教育とは？イスラム教の国は、どんな国ですか？
- 15:10 休憩 (10分)
- 15:20 講演 藤井 史朗 派遣国：メキシコ、職種：品質管理・生産性向上  
テーマ：メキシコ・ケレタロ工科大学での2年間の活動報告
- 16:20 まとめと閉会挨拶
- 16:30 会場後片付け
- 17:00 - 19:00 懇親会

## ■ 参加者の所属と人数

- 会場参加：一般県民 1 名、友好団体会員 (来賓を含む) 8 名、会員 (講師を含む) 22 名 小計 31 名  
リモート (Zoom) 参加：6 名 (参加申込数)  
会場とリモート参加合計 37 名

(編集：高瀬 義彦 Powered by Gemini 3 Pro Preview)

- 質問意見受付の千葉県 JICA シニアボランティアの会 Email : [chibajicasv02@gmail.com](mailto:chibajicasv02@gmail.com)